

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 三次市立安田小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 729-4203

広島県三次市吉舎町安田1741番地1

E-mail yashuda-e@school.miyoshi.hiroshima.jp

Website www.miyoshi-yashuda-e.hiroshima-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 6 名 女子 1 名 合計 7 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「自然環境や生命を尊重し、地域を愛する心情をもち実行していく力」を学校理念として、ESDを学校の教育課程全体で実施（ESDカリキュラム）、ESDの実践を通して児童の自学力の育成を目標とした。

具体的には、児童に付けたい力として、①「科学的な知識を活用して多面的に考えたり説明したりする力」（多面・伝達） ②「日常的に見られる自然現象を総合的に考える力」（多面・未来） ③「自然環境や生命を尊重し、地域を愛する心情を持ち、実行していく力」（関連・参加）を柱に、①地域の環境に係わる活動、②科学研究に係わる教育、③安田こども自然ガイドに係わる学習、④ダルマガエルに係わる学習等を行った。

① 地域の環境に係わる活動

本年度も、地域の素材や学習の足跡を持続発展教育の関連性やつながりの視点で整理した「安田ESDカリキュラム」（資料は第6学年）をもとに取組を進めた。また本年度は、様々な活動に児童につけたい7つの力（批判・未来・多面・伝達・協力・関連・参加）を明確にし、実践していった。

そのカリキュラムをもとに、活動を取組、絶滅危惧種である「ダルマガエルの生態調査」、地域の自然や素材を生かし水生生物の研究・身の回りの昆虫の調査などの「環境学習」を行った。

② 科学研究に係わる教育

学校全体で科学研究に取り組む。夏休み終了後に保護者、地域の方々に呼びかけて科学研究の途中報告を行う。学習発表会において科学研究の発表を行う。

- ・ 自然科学を中心に、日常的に疑問に思った事を研究する。
- ・ 研究の方策を理解し、他の疑問にも活用できるようにする。

③ 自然ガイドに係わる取組

- ・ 地域の自然の特徴を知る。
- ・ 地域の植物を知る。
- ・ 図鑑で調べる力を付ける。
- ・ 6年生が低学年を指導できる力をつける。
- ・ 保護者・地域の方々にガイドをおこない、分からない植物等をまとめ調べる。
- ・ 調べたことについて、聞いている人に分かりやすく伝えることを目的にする。

④ ダルマガエルに係わる学習

個体数調査を地域の方々と長年実施しており、個体数の大まかな増減について記録に残す事ができる。

他の種のカエルについて触れる機会となっており、カエル類の特徴を知るきっかけとなっている。

しかし広い田んぼでの調査であり、正確性の向上について考える必要がある。また、気温などについての記録をしておらず、調査時の個体数の比較にとどまっている。



① 安田ESDカリキュラム



② 科学研究にかかる教育



③ 安田こども自然ガイド



④ 分類と個体数の調査

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> □ 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特にありません

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

理科・生活科・総合的な学習の時間中心として行っている。特に総合的な学習の時間を活用して、「安田子ども自然ガイド」「科学研究」「野鳥の観察」を実施する。また、道徳では「感謝」「環境保全」「国際理解」「郷土愛」「自然愛」「社会奉仕」「生命尊重」について、ESDの活動と関連付けながら指導をおこなう事を目指している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「ESD教育ありき」で進めていくのではなく、年度当初職員の研修で「ESDとは」「その目的」「どのような活動が仕組まれるか」「児童に付けた力」等々話し合い、本年度の重点を決めみんなで確認しながら進めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- 科学研究の発表や自然ガイドの取組から、まとめた事を保護者・地域の方々の前で発表する事に慣れている。
- 地域の方々に児童の様子を良く知っていただいている。地域の学校として児童が可愛がっていただいている。また、児童も地域の方々を良く知っている。
- 学力テストでは、特に理科について、思考力が高い結果となっている。
- △少人数であることから、ESDの取組と学力との相関関係を明確にする事が難しい。
- △学んだ事をプレゼンする力がコミュニケーション力の育成に充分につながっているかどうか検証が不明確である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校では、年度当初職員みんなでESD教育について研修を持ちながら、年間計画を立て、進めている。しかし、発信の方法が不十分なため、拠点推進校としての役割を十分果たしているとは、言い難い。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域には、「ダルマガエルを守る会」や「ユキワリイチゲを守る会」などで活躍されている方を児童の学習や職員の研修などにお呼びして、成果を上げている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内および国外とのユネスコスクールと交流を行い、よりダイナミックに進めていきたいと思っている。しかし、本校は「環境学習」に特化しており、そういうネットワークをリサーチし、交流していく時間等が不足している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

活動の一つである「安田こども自然ガイド」は、調べた動植物の蓄積が財産となり、知識や理解だけでなく、自然愛護の精神が高まってきている。また、この取り組みを楽しみ、校区以外の方々の参加も見られるようになってきた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

○学校の教育課程全体で実施していく（ESDカリキュラム）

来年度も目標「自然環境や生命を尊重し、地域を愛する心情をもち実行していく力」とし、理科・生活科・総合的な学習の時間中心として行っている。特に総合的な学習の時間を活用して、「安田こども自然ガイド」「科学研究」「野鳥の観察」を実施する。また、道徳では「感謝」「環境保全」「国際理解」「郷土愛」「自然愛」「社会奉仕」「生命尊重」について、ESDの活動と関連付けながら指導をおこなう事を目指している。

児童数減少により、31年度は、統合により、本校が閉校となるため、これまでの取組を考え直しながら、30年度を充実したものにしていきたい。